— CASE STUDY —

# 医療・福祉サービスを提供する職員に iPhone600台を展開 職種の壁を取り払い、最善のサービス提供を目指す

青藍会グループ

**青藍会グループ**（医療法人社団 青藍会・社会福祉法人 青藍会・有限会社あんのメディカル）

| | |
|---|---|
| 業種 | 医療・介護・福祉 |
| 従業員数 | グループ総数930名 |
| ご担当者 | 情報システム戦略部 部長 大野崇雄氏<br>情報システム戦略部 デジタル課 糸賀優樹氏<br>ハートセンター 広報課 課長 和田友子氏 |

| 課題・背景 | 効果 |
|---|---|
| グループ間の多職種連携を目指していた | 検索性が高く、職員間の連携がしやすい |
| 600人もの連絡先をiPhoneに自分で登録するのは困難 | Azure ADとの連携で人手作業が不要、管理工数を軽減 |
| メール付属の電話帳機能の使い勝手に不安 | PHONE APPLI PEOPLEが当たり前のインフラとして、グループ内に浸透 |

## コロナ禍でデジタル化が加速
## 職種の壁を取り払う連携を目指し、職員にiPhoneとメールを展開

山口県山口市で、医療・介護・教育などのサービスを提供している「青藍会グループ」では、医師はもとより、様々な専門家が一体となって多職種協働で患者や利用者をサポートする体制を作っている。そのためには職種の壁を取り払い、それぞれの専門的な知見から最善の提案を連携して行う仕組みが求められていた。同グループでは、これまでも介護記録を行うためのiPadの導入など、デジタル化に取り組んでいたが、それがコロナ禍でさらに加速した。コロナ禍もあり場所に縛られず、社外ともタイムリーに情報共有できる仕組みが必要と考えて2020年末、常勤職員に約600台のiPhoneを貸与。それと前後して、職員に個別の電子メールアドレスも配布した。600台ものiPhoneを全社で活用するには、共通の電話帳も必要だ。

当初、共通電話帳は電子メールの新たなプラットフォームであるMicrosoft Exchange Onlineの機能を活用する予定だった。しかし、そのユーザビリティに不安があり、せっかくのiPhone貸与の意味合いが薄れると考え、PHONE APPLI PEOPLEの導入を検討した。

## 検索性が高く、職員間の連携がしやすい

こうして社内に広がったPHONE APPLI PEOPLEは今では、職員にインフラに近いイメージで定着し、あたりまえに活用されている。氏名だけでなく、施設名や部署名で検索できることで、業務効率化につながっている。同グループでは、社外からの着信はすべてコールセンターで受ける形を取っており、そのため職員同士が通話する場合は社外に公開している番号ではなく、専用番号にかける必要がある。PHONE APPLI PEOPLEにはその専用番号が登録しているため、これまでよりも職員間の連絡がとりやすくなった。

## Azure ADとの連携で人手作業が不要、管理工数を軽減
## 組織変更や人事異動時も常に最新情報が共有できる

iPhone導入にあたりExchange OnlineやApple IDなど管理対象のシステムが増えましたので、人手による作業は可能な限り削減することを考えていた。PHONE APPLI PEOPLE はAzure ADと連携性も高く、ユーザ登録などを手作業で行う必要がない。人事異動や組織変更の際もPHONE APPLI PEOPLEには常に最新情報が表示る。個別にメンテナンスしなくてよく、管理者の工数軽減にも貢献している。


Web 電話帳クラウドサービス

**PHONE APPLI** PEOPLE（旧：連絡とれるくん）

人の価値を高め、生産性を向上させる“人”中心のクラウドサービスです。
キーワードやスキルで社内の専門家を、名刺データからお客様を簡単に探しだし、最適なコミュニケーション（チャット、メール、電話、Web会議）がとれ、コラボレーションを活性化させます。大手企業を中心に150万ライセンス活用されています。

Web電話帳クラウドサービス
7年連続国内市場シェア
No.1 ※

※出典：MM総研「Web 統合電話帳アプリケーションの市場規模調査」（2020年7月）

フォンアプリ

https://phoneappli.net/product/service/papeople/